

# 宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第46号 (2026年3月号 [2026/3/9 発行])

寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。まだまだ朝晩は冷えて寒暖の差が大きい日が続いております、体調を崩しやすい時期です。

さて、本号では、

## 「バイオシミラー」

のお話ししたいと思います。

### 【関節リウマチ治療の進歩/「バイオ医薬品」】

関節リウマチの治療は、この20年ほどで大きく進歩しました。特に「バイオ医薬品」と呼ばれる新しいタイプの薬の登場により、炎症を強力に抑え、関節の破壊を防ぐことができるようになりました。多くの患者さんが日常生活を保ちながら生活できるようになったことは、現代のリウマチ医療の大きな成果と言えます。一方で、こうした治療の進歩とともに、医療費の問題も重要な課題となっています。日本の国民医療費は年々増加しており、将来はさらに増えると予測されています。試算では、2040年度には医療費は約76兆円に達するとされています。その要因の一つとして、高額なバイオ医薬品の普及が挙げられています。また、実際の患者さんの声としても、「薬をいつまで続ける必要があるのか」「治療費が長期的に負担にならないか」といった経済的な不安を感じている方が少なくありません。調査では、約3割の患者

さんが薬の費用について不安を感じていると報告されています。こうした背景の中で注目されているのが「バイオシミラー」です。

### 【バイオシミラーとは】

バイオシミラーとは、すでに使用されているバイオ医薬品（先行バイオ医薬品）と「同等・同質」の品質、安全性、有効性を持つ薬です。バイオ医薬品は、化学合成の薬とは異なり、細胞を利用して作られるタンパク質の薬です。そのため分子の大きさが非常に大きく、製造過程では糖鎖構造などにわずかな違いが生じることがあります。しかし、これらは厳格な品質管理のもとで、有効性や安全性に影響がない範囲で管理されています。バイオシミラーは、この先行バイオ医薬品と同等であることを、構造解析、非臨床試験、臨床試験などの多くの研究によって確認したうえで承認されます。開発の一部が簡略化されるため、価格は先行品より低く設定されることが多く、日本ではおおむね先行品の約7割程度の薬価となっています。例えば、関節リウマチで広く使用されているアダリムマブのバイオシミラーでは、臨床試験において先行品と同等の有効性と安全性が確認されています。また、先行品からバイオシミラーへ切り替えた場合でも、治療効果や副作用に大きな違いがないことが研究で示されています。

### 【現在使用できる/これから使用できる バイオシミラー】

現在、日本ではいくつかのバイオ医薬品についてバイオシミラーが使用できるようになっています。関節リウマチの治療では、「インフリキシマブ」、「エタネルセプト」、「アダリムマブ」などのバイオシミラーがすでに使用されています。さらに今後は、「ゴリムマブ」、「トシリズマブ」といった薬についてもバイオシミラーが登場する予定があり、治療の選択肢はさらに広がると考えられています。

### 【バイオシミラーの位置づけ】

国もバイオシミラーの普及を重要な政策として位置づけています。政府の「骨太の方針 2023」では、2029年までにバイオシミラーの使用割合を大きく高める目標が掲げられています。また、日本リウマチ学会の診療ガイドラインでも、先行バイオ医薬品とバイオシミラーは同等に推奨されています。ただし、薬が変更されることに対して不安を感じる患者さんもいらっしゃいます。そのような不安から症状が悪化したように感じる現象を「ノセボ効果」と呼びます。バイオシミラーが先行品と同等であることを知っておくこ

とが大切です。

バイオシミラーの導入には大きな意義があります。薬剤費の負担を抑えることで、より多くの患者さんがバイオ医薬品による治療を受けやすくなります。また、医療費全体の持続可能性を保つことにもつながります。

関節リウマチの治療は「長く続けること」が重要です。だからこそ、治療の効果だけではなく、費用や将来の医療のあり方も含めて考えていく必要があります。これからも新しいバイオシミラーが登場してくるでしょう。医療者と正しい情報を共有しながら、安心して治療を続けていくことが、今後ますます重要になっていくでしょう。

(日高利彦)

### 第34回宮崎リウマチのケア研究会で 当院の今村真理看護師が発表しました

2026/2/21（土）にアートホテル宮崎にて「第34回宮崎リウマチのケア研究会」が開催され、当院の今村真理看護師が、「関節リウマチ患者の生活背景を踏まえた自己注射指導前問診票の作成とフローシート導入の取り組み」と題して発表しました。最優秀演題に選ばれ、来年東京で開催される「第27回RA トータルマネージメントフォーラム」にて発表することになりました。更なるご活躍を祈念致します。

---

リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

([https://www.m-zenjin.or.jp/publicity\\_cat/publicity\\_1](https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1))

(QRコードは右の通り)

